

4. 爬虫類

【選定・評価方法の概要】

爬虫類では、東京都島しょ部において現在生息が確認されている在来種のうち、陸域及び島しょ部近海を生活の場とするものを評価の対象とした。

検討対象種は、伊豆諸島については、トカゲ類 3 種、ヘビ類 5 種、ウミガメ類 4 種の合計 12 種とした。小笠原諸島については、トカゲ類 2 種とウミガメ類 4 種を検討対象種とした。

絶滅のおそれの評価は、基本的に定量的要件を用い、CR（絶滅危惧 IA 類）と EN（絶滅危惧 IB 類）も区別した。

なお、これまで島しょを取り巻く海域に生息する海棲爬虫類（ウミガメ類とウミヘビ類）の基礎調査は十分ではなかった。そのため、セグロウミヘビの漂着死体の記録や、エラブウミヘビとヒメウミガメの目撃記録が得られたものの、情報量が極めて不足しているため、これらは評価の対象に含めなかった。今後、調査を進め、客観的に生息状況の評価が行えるようにしなければならない。

【選定・評価結果の概要】

<伊豆諸島>

評価の結果、ウミガメ類の 4 種のうち、上陸産卵の記録があるアオウミガメとアカウミガメを VU（絶滅危惧 II 類）とし、上陸記録がない、あるいは本来の産卵環境から地理的に離れているが沿岸域で生息記録のある 2 種（タイマイとオサガメ）を DD（情報不足）とした。

ヘビ類では、生息する島の数と面積、過去30年間の記録を基に判定した。生息する島が大島 1 つに限られ、確認が文献でしかないことを理由にジムグリを CR（絶滅危惧 IA 類）と判定し、複数の島に生息するが減少傾向がはっきりしていたアオダイショウとニホンマムシを EN（絶滅危惧 IB 類）とした。シロマダラは、情報不足により DD とした (Hasegawa, M., 2003. Ecological diversification of insular terrestrial reptiles: a review of the studies on the lizard and snakes of the Izu Islands. *Global Environmental Research* 7:59-67.)。

伊豆諸島と伊豆半島の固有種オカダトカゲは、伊豆諸島の主要な島に生息するが島間で遺伝的な分化が進み、かつ人為的に移入されたニホンイタチの捕食により三宅島、八丈島、青ヶ島集団の生息個体数が激減したため、島ごとに見た場合、これらの3島については EN よりランクの高い CR に相当すると評価した (Hasegawa, M., 1999. Impacts of introduced weasel on the insular food web. In H. Ota (ed.) *Diversity of Reptiles, Amphibians and Other Terrestrial Animals on Tropical Islands: Origin, Current Status and Conservation*, pp. 129-154. Elsevier.)。ニホンカナヘビは、当面の危機が認められなかったためランク外とした。

今後の課題として、オカダトカゲの生存を脅かすニホンイタチと交雑による遺伝子浸透

の原因となっている移入ニホントカゲをはじめ、島しょ集団への脅威となる外来種（ヒキガエル類）の駆除を検討していく必要がある。オカダトカゲの三宅島、八丈島、青ヶ島集団については、島内に断片的に残されている小集団の実態を把握し、その生息環境を保全する必要がある。

<小笠原諸島>

検討対象となった 6 種のうち、グリーンアノールの捕食及び競争によって個体数の減少したオガサワラトカゲを NT（準絶滅危惧）、上陸産卵個体数が大きく減少したアオウミガメを VU（絶滅危惧Ⅱ類）と評価した。アカウミガメとタイマイは、上陸産卵の記録が十分ではなく DD（情報不足）とした。ミナミトリシマヤモリは太平洋の島々に広域分布するため、日本では南硫黄島と南鳥島からのみ記録され分布域の狭い種であるが、固有性に関する情報の不足から DD と判定した。

小笠原諸島における絶滅危惧種の保護、保全対策では、現在すでに行われているグリーンアノールの駆除を、オガサワラトカゲの保護という視点に広げ実施する必要がある。小笠原のオガサワラトカゲは、同属の他の島しょ（マリアナ諸島など）集団と比較して最も体サイズが大きく、小笠原諸島独自の形質を有しているからである。

（長谷川 雅美）

爬虫類(島しょ部)

【記号凡例】

[EX]絶滅 [EW]野生絶滅 [CR]絶滅危惧ⅠA類 [EN]絶滅危惧ⅠB類 [VU]絶滅危惧Ⅱ類
[NT]準絶滅危惧 [DD]情報不足 [LP]絶滅のおそれのある地域個体群 [*]留意種

■伊豆諸島

標準和名	学名	東京都ランク (伊豆諸島)	環境省 ランク	備考
カメ目	TESTUDINES			
ウミガメ科	Cheloniidae			
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	VU	VU	
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	VU	EN	
タイマイ	<i>Eretmochelys imbricata</i>	DD	EN	
オサガメ科	Dermochelyidae			
オサガメ	<i>Dermochelys coriacea</i>	DD		
トカゲ目(有鱗目)	SQUAMATA			
トカゲ科	Scincidae			
オガサワラトカゲ	<i>Cryptoblepharus nigropunctatus</i>	DD	NT	
オカダトカゲ	<i>Plestiodon latiscutatus</i>	EN	LP	1
ナミヘビ科	Colubridae			
ジムグリ	<i>Euprepiophis conspicillatus</i>	CR		
アオダイショウ	<i>Elaphe climacophora</i>	EN		
シマヘビ	<i>Elaphe quadrivirgata</i>	VU		
シロマダラ	<i>Dinodon orientale</i>	DD		
クサリヘビ科	Viperidae			
ニホンマムシ	<i>Gloydius blomhoffii</i>	EN		

種名及び配列は、日本爬虫両棲類学会による日本産爬虫両棲類標準和名(2009年12月6日改訂案)に従った。

【備考】

- 1: 本種は、各島の個体群が遺伝的に分化していることが明らかにされている。三宅島、八丈島、青ヶ島の個体群は特に減少が顕著であり、島ごとに見た場合、ENより1ランク高いCRに相当する。

■小笠原諸島

標準和名	学名	東京都ランク (小笠原諸島)	環境省 ランク	備考
カメ目	TESTUDINES			
ウミガメ科	Cheloniidae			
アオウミガメ	<i>Chelonia mydas</i>	VU	VU	
アカウミガメ	<i>Caretta caretta</i>	DD	EN	
タイマイ	<i>Eretmochelys imbricata</i>	DD	EN	
オサガメ科	Dermochelyidae			
オサガメ	<i>Dermochelys coriacea</i>	DD		
トカゲ目(有鱗目)	SQUAMATA			
ヤモリ科	Gekkonidae			
ミナミトシマヤモリ	<i>Perocirus ateles</i>	DD		
トカゲ科	Scincidae			
オガサワラトカゲ	<i>Cryptoblepharus nigropunctatus</i>	NT	NT	1

種名及び配列は、日本爬虫両棲類学会による日本産爬虫両棲類標準和名(2009年12月6日改訂案)に従った。

【備考】

- 1: 本種は、各島の個体群が遺伝的に分化していることが明らかにされている。父島では特に減少が顕著であり、島ごとに見た場合、NTより2ランク高いENに相当する。